ISSN 2759-3282

Journal of Japanese Human Services Society

ヒューマンサービス学会誌

2023 Vol. 1

JHSS

https://japanesehuman-services.jp/

ヒューマンサービス学会誌

第 1 巻　2023 年度

目　　次

巻頭言

ヒューマンサービスを学問として体系化する…… 1
中村　丁次

特別寄稿

ヒューマンサービス学会への期待…… 2
山崎美貴子

つながりの持てる社会づくり…… 8
―社会的孤立の実態と伴走型支援―
藤森　克彦

総説 –Review Article-

IPE における「模擬電子カルテ」活用の意義および導入戦略と課題：スコーピングレビュー
渡 邉　 惠，長島　俊輔，水戸　優子…… 18

実践報告 -Practical Report-

Development of Physical Fitness Test and Lifestyle Survey Questionnaire for Elementary and Junior High School Students: Application in Indonesia
Ishak Halim Octawijaya, Ayaka Iida, Reisi Nurdiani, Rimbawan Rimbawan, Tomoko Nakanishi, Teiji Nakamura, Shihoko Suzuki…… 28

編集後記 …… 37

《掲載原稿全文はメディカルオンラインで公開しています》

ヒューマンサービス学会誌　2023; (1): 1

「ヒューマンサービスを学問として体系化する」

中村　丁次

ヒューマンサービス学会理事長

神奈川県立保健福祉大学は、高齢社会の到来に対応できる人材養成を目的に、2003 年、世紀の転換期に誕生した。次世紀への期待を基に、新たな大学への夢の話が繰りかえされた。議論の核になったのは、科学の進歩によりそれぞれの領域が専門分化されたが、その反動として全体性が失われ、非人道的な戦争が何度も繰り返されたことであった。来るべき 21 世紀こそ、平和で、健康で、信じあえる心豊かな世界の到来を期待する中で「ヒューマンサービス」が誕生した。

この理念には、保健・医療・福祉の多様な問題に全人的に対応すること、専門間の調整を図り包括的共同目標に向けて連携と両立可能性を深めること、誰をも排除することなく、利用者主体のサービスに統合して理念・方法・システムを構築すること、そしてコミュニテイーを基礎とする人間の幸福を追求する新しい文化を目指すパラダイムであることが包含されている。開学以来 20 年間、大学は、この理念を基に教育、研究さらに地域貢献を追求してきた。その結果、教職員、学生、さらに地域の人々の協力により、教育、研究は高いレベルを維持し、卒業生に対する評価も良好な大学に成長した。開設当初に描いた目標は、ほぼ達成できたと言える。

しかし、最近の社会や環境の変化は、われわれの予測を大きく超えていた。急速な少子高齢化、経済の低迷、経済格差、感染症によるパンデミック、異常気象と開発・進歩による環境破壊、ロシアのウクライナ侵略や宗教対立による国際関係の緊張化等が、保健、医療、福祉に影響を与えつつある。このことは、未来社会に貢献できる人材の養成を困難にし、先の見えない社会に突入しつつある。本来、このような時こそ、大学は率先して松明を灯し、未来を明るくしなければならないのであるが、大学そのものが総合的な力を失いつつある。

しかし、歴史を振り返れば、実は、このような末法思想に人類は何度も遭遇し、私も、子どものころに「地球最後の日」を夢中で読んだことを覚えている。この世の終わりかと思いながらも、人類は進歩し続けているのである。その原点になっているのは、人間同士の絆、経験と科学技術に基づいた崇高な知恵であり、これらを積み重ねることにより創造した学問だと思っている。学問が進歩し続ける限り、決して人類は滅びることはない。それは、人類は、何か問題が生ずれば、その解決法を探り、その方法論を深化させ、発展させるからである。学生の頃、高度経済成長を成し遂げるために、近代化、工業化が進められ日本の国土は公害列島になり、自然環境は失われて、この世は終焉だと思っていた。科学が起こした失策は、科学技術により解決することが原則であり、環境学の進歩により、青い空も、川も、海も取り戻した。

このような時期に「ヒューマンサービス研究会」が学会に進展した意義は大きい。それは、ヒューマンサービスそのものを研究目的にした研究会から、ヒューマンサービスを体系化させ学問に発展させるべき「ヒューマンサービス学会」が誕生したからである。

「ヒューマンサービス学会」の設立にご尽力いただいた教職員の皆様、入会していただいた皆様に心から感謝申し上げます。

ヒューマンサービス学会誌　2023; (1): 18-27

総　説

多職種連携教育における「模擬電子カルテ」活用の意義および導入戦略と課題：スコーピングレビュー

渡 邉　惠[1)] *，長島　俊輔[1)]，水戸　優子[1)]

[1)] 神奈川県立保健福祉大学　保健福祉学部　看護学科

抄　録

多職種連携教育（IPE）での「模擬電子カルテ」活用の効果と導入の意義・課題を明らかにし，効果的な教育方法の示唆を得る目的でスコーピングレビューを実施した。データベースは，PubMed，MEDLINE，CINAHL，Health Source，医中誌 Web を用い，発表年は無制限とした。対象文献は 14 件で，IPE の評価に関する介入・観察研究 3 件，教育開発や取り組みに関する実践報告･意見 5 件，教育開発における調査研究 3 件，電子カルテ教育に関する文献レビュー 3 件だった。教育方法は事例検討，技術訓練，チーム学習など多様であり，多職種連携の能力をはじめ肯定的な教育効果が報告され，電子カルテ導入の意義が明確になった。しかし現時点で教育者向けガイドラインがなく，教員のエンゲージメントや技術訓練・サポート体制不足，資金不足などが導入の障壁とされていた。継続的・長期的な教育実践とその評価の可視化により教育効果のエビデンスを蓄積することが，IPE での電子カルテの普及・促進を目指すための課題である。

キーワード：多職種連携教育，多職種連携，電子カルテ，スコーピングレビュー

Significance, and implementation strategies and challenges of using " Educational Electronic Health Record " in Interprofessional Education : A scoping review

Megumi Watanabe[1)]*, Shunsuke Nagashima[1)], Yuko Mito[1)]

[1)] School of Nursing, Faculty of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services

Abstract

A scoping review was conducted to determine the effectiveness, and the significance and challenges of implementation of using " Educational Electronic Health Record (E-EHR)" in Interprofessional Education（IPE）, and to obtain suggestions for effective educational methods. The databases used were: : PubMed, MEDLINE, CINAHL, Health Source, and ICHUSHI Web, and the years of publication were unlimited. Of 14 references were included: 3 intervention and observational studies on IPE evaluation, 5 practice reports and opinions on educational development and initiatives, 3 survey studies in educational development, and 3 literature reviews on electronic health record education. They showed various kinds of teaching method, including case study, technical training, and team learning, and also reported positive educational effects (i.e., the competencies of IPW), which have clarified the significance of utilizing EHR. However, they mentioned that currently there have been no guidelines for educators and that lack of teacher's engagement, technical training, support systems, and funding have been barriers to implementation of EHR. The challenge to promote and disseminate EHR in IPE is to accumulate evidence of educational effects through continuous and long-term educational practices and visualization of their evaluation.

Key Words: Interprofessional Education, Interprofessional Work, Electronic Health Record, Scoping Review

ヒューマンサービス学会誌　2023; (1): 28-36

実践報告

Development of Physical Fitness Test and Lifestyle Survey Questionnaire for Elementary and Junior High School Students: Application in Indonesia

Ishak Halim Octawijaya[1)*], Ayaka Iida[1)], Reisi Nurdiani[2)], Rimbawan Rimbawan[2)], Tomoko Nakanishi[1)], Teiji Nakamura[1)], Shihoko Suzuki[1)]

[1)] Kanagawa University of Human Services, Japan

[2)] Department of Nutrition, Faculty of Human Ecology, IPB University, Indonesia

Abstract

Recently, the social environment surrounding children has changed significantly, and health issues among schoolchildren, including stunting, overweight and obesity, and low physical activity, have become more severe in Indonesia. The Indonesian government has not undertaken nationwide physical fitness tests or lifestyle habits surveys to understand children's physical fitness issues, unlike the survey conducted in Japan. Introducing and establishing methods of physical fitness tests and lifestyle surveys conducted in Japan may contribute to the healthy growth and development of Indonesian children and will further contribute to their social development. In this project, we focus on whether the physical fitness test and lifestyle survey conducted by Japan MEXT can also be applied in Indonesia. This practical report provides the translation, simulation, and discussion sessions we took to develop an Indonesian version of the physical fitness test and lifestyle surveys. The Indonesian version of the Physical Fitness Test and Lifestyle Survey Questionnaire was developed with some alterations from the Japanese version. The content and the survey to be conducted in the future need to be improved, cooperating with Indonesian schools, including physical education teachers and students.

Keywords: Schoolchildren, Physical fitness test, Lifestyle, Questionnaire, Indonesia

小・中学生の体力測定と生活習慣調査の開発：インドネシアでの適用

Ishak Halim Octawijaya[1)] *、飯田　綾香[1)]、Reisi Nurdiani[2)] , Rimbawan Rimbawan[2)]、
中西　朋子[1)]、中村　丁次[1)]、鈴木志保子[1)]

[1)] 神奈川県立保健福祉大学

[2)] ボゴール農科大学　人間生態学部　栄養学科

抄　録

近年、インドネシアでは子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、低身長（Stunting）や肥満、身体活動量の低下など、子どもの健康問題が深刻化している。インドネシア政府は、子どもの健康問題を把握するための体力測定・生活習慣調査を行っていない。日本で実施されている体力・運動能力、運動習慣等調査手法をインドネシアへ導入し、その手法を確立することは、インドネシアの子どもたちの健全な発達・発育に寄与し、社会的発展に貢献することが期待される。本実践報告は、日本の文部科学省が実施する体力測定・生活習慣調査をインドネシアに適用可能かに着目し、インドネシア版の体力測定・生活習慣調査を開発する過程を記録した。インドネシア版体力テスト・生活習慣調査票は、日本語版から若干の変更を加えて作成した。今後、インドネシアの小中学校の体育教諭や児童生徒を含む学校関係者との連携しながら、調査内容や方法を改善する必要がある。

Key Words: 小中学生、体力テスト、生活習慣、調査、インドネシア

編集後記

「ヒューマンサービス学会誌発刊にあたって」

ヒューマンサービスは現場の実践と一体となった活動です。そしてこのヒューマンサービスの活動が教育・研究・実践の探究を通して成長し、さらに学術的レベルまでに深化・発展することをめざして本学会は設立されました。そして学会活動の成果を公表できる場として、ここにヒューマンサービス学会誌第１巻第１号をお届けすることができました。

12 年前に設立された神奈川県立保健福祉大学のヒューマンサービス研究会を母体とし、その趣意を引き継ぐ形で誕生した学術誌として、ヒューマンサービスの発展に貢献できる学術誌となることを目指し、今後もより多くの論文等を掲載していきたいと思いますので、どうぞ奮って投稿くださるようお願いいたします。

ヒューマンサービス学会誌編集委員会　委員長　隆島 研吾

ヒューマンサービス学会誌 編集委員会

編集委員長　隆島 研吾
副委員長　　鄭　雄一・熊谷圭二郎
編集委員　　飯田 綾香・川名 るり・久保田 悠・城川 美佳
　　島津 尚子・中村美安子・西名 諒平
ヒューマンサービス学会　事務局長　水戸　優子

ヒューマンサービス学会誌　第１巻
Journal of Japanese Human Services Society, 2023 Vol.1

編集　ヒューマンサービス学会誌　編集委員会
発行　ヒューマンサービス学会
　　ヒューマンサービス学会事務局
　　〒 238-0013　神奈川県横須賀市平成町 1-10-1 神奈川県立保健福祉大学内
　　E-mail:（公式）human_survice@kuhs.ac.jp　（事務局）human_services@outlook.jp
　　Web サイト : https://japanesehuman-services.jp/index.html

組版　株式会社ソウブン・ドットコム

《掲載原稿全文はメディカルオンラインで公開しています》